

寒椿

松岡隆子

忘れては思ひ出しては年暮るる
さみどりはやすらぎの色なづな粥
七種や記憶の扉開けておく
人日の男の歩幅真似てみる
寒林の奥の明るさ畏れけり
枯蔓の抗ふ力なほ引けり
誰か消えまた誰か消ゆ雪の町

東京の雪降る午後をさ迷へり

悼・齋藤充さん

人悼む心に雪の降りしきる

寒椿訪ひくる人もなく暮るる

落つる日も真つ赤でありし寒椿

遠景の街の灯あかき追儼かな

この頃は、無理をしないようにと言われるとついその気になって、身を甘やかしてしまうことが多くなった。だが今月ばかりはそうもしておられない。2月はもともと28日しかないところ、今年は月末の27日、28日が土日で、その上祝日が2日あり稼働できる日が限られている。本誌の発送は三和印刷さんのご厚意で東京営業所の会議室を使わせてもらっている。26日の発送を目指して早めに選句したつもりだが、最後は私の遅滞稿の所為で予定通りにいかなかった。結局どこかで身を甘やかしていたようだ。